

くらの良品研究所の活動

緑のある暮らし



3月にベランダで育てる菜園キットを発売し、多くの方に購入していただきました。ご自分で育てた夏野菜が食卓を飾り、豊かな気分を味わっていただけたことでしょう。モニターになっていただいた方からは5回にわたってご報告いただき、収穫までの奮闘記をサイト上でご紹介。土の問題や病気や害虫対策など、貴重なご意見から学んだことは、来年の商品開発の参考にさせていただきます。また、ウェブサイト上のコラムでは、森の話、ベランダ菜園、コンパニオンプラントなど、折りに触れてお話をさせていただきました。

世界を変えるデザイン展



先進国のデザインの力で、現地の人々の暮らしを豊かにできないだろうか。発展途上国の資源を活用して、先進国の暮らしに役立つものを提供できないだろうか——そんな視点から企画された「世界を変えるデザイン展」。そのパート2を無印良品有楽町で開催(10月1日～20日)し、1万人近いご来場者がありました。無印良品では、商品化も視野に入れながら、取り組める課題を模索中。今後、そのプロセスをサイト上でもご紹介できればと考えています。→ 関連コラム

<http://www.muji.net/lab/theme/csr/column/100915.html>

MUJI 新宿トークショー



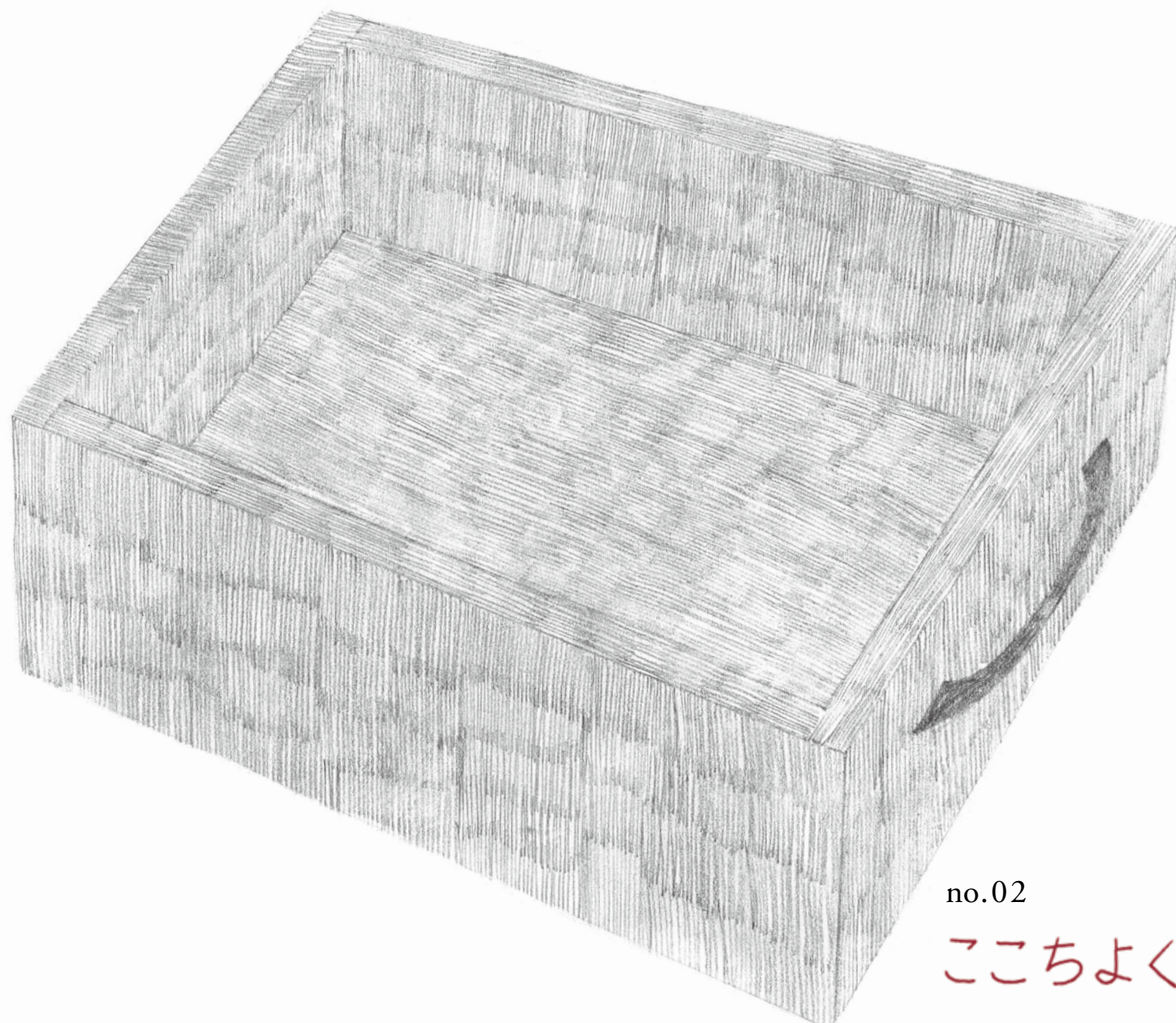
9月後半から、不定期にクリエイターをお招きして、暮らしに関するトークショーを開催しています。みなさんからのご意見を交えながら、「現代の理想の暮らしとは?」という問いへのヒントを探していくつもりです。ぜひ、ご参加ください。きっと、ご自身の暮らしを考えるためのヒントが見つかるでしょう。ネット上でもご覧いただけるよう、U-STREAMで放映しています。

→ <http://www.muji.net/lab/information/>

くらの良品研究所とは

「くりかえし原点、くりかえし未来。」を合言葉に、これからの時代に求められる良品像を、みなさんと一緒に探っていく「ラボラトリー」です。店舗とインターネットを介して、生活者であるお客さまと対話しながら、既存商品を点検し、新しい商品を育て、世界のより多くの人々に「これでいい」と共感していただける、感じいい暮らしのかたちを考えていきます。

◇この小冊子は、背表紙に付いた2つのリングをファイルの穴に通して、ストックすることができます。



no.02

こちよく住みたい

11月11日にリニューアルしました。
facebookを利用して、読者のみなさんからのコメントやご意見を公開。ユーザー同士のご意見交換も可能になり、たくさんのご意見を共有できるようになりました。

<http://www.muji.net/lab/>

無印良品

くらし中心

心地よく住みたい

整理整頓は、日々を快適に過ごすために欠かせない、暮らしの基本です。

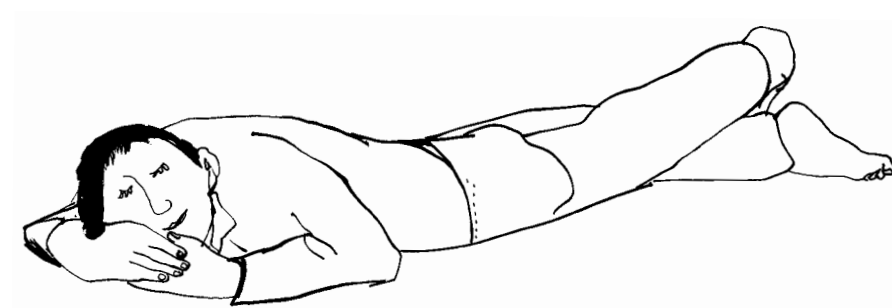
使ったら元に戻す、ものを増やさない、不要なものは整理するなど

いろいろ言われていますが、それはあくまでも、心地よい空間をつくるための技術。

大事なことは、その空間でどう暮らしたいのか、ということでしょう。

心地よい暮らしの基準は、人それぞれです。自分の心地よさを基準にしながら

ものとう付き合っていくのか、と一緒に考えてみませんか。



ものの持ちかた

箆笥からクローゼットへ

かつて、家の収納の主役は箆笥でした。そして20年ぐらい前までは、嫁入り道具といえば箆笥がつきものでした。

箆笥ができたのは江戸時代の初期、1600年代半ばのことです。当時はとても高価なもので、庶民が使えるようになったのは、江戸時代の終わりごろからだといえます。そのころ、大事なものは棟を分けた蔵にしまうのが常でしたが、日常的に使うものを手元に置くには、箆笥が便利だったに違いありません。

船箆笥、薬箆笥、手許箆笥、車箆笥、階段箆笥、布団箆笥、衣装箆笥、刀箆笥、帳場箆笥…使う場所や用途に合わせて、さまざまな箆笥が生まれ、それぞれに名前がついていました。その後も時代の流行に合わせながら、箆笥は使い続けられていきました。

しかし最近の住宅からは、箆笥が消えつつあります。特にマンションでは、箆笥を置く場所はありません。日本の近代化と都市部への人口集中は、小さな家を効率よくつくることを促しました。あとから置く家具より、収納スペースを建築の中に組み込んでいくほうが空間を効率よく使えますし、見た目にもすっきりしています。洋服はクローゼットに、食器はシステムキッチンの棚に、変わっていったのです。

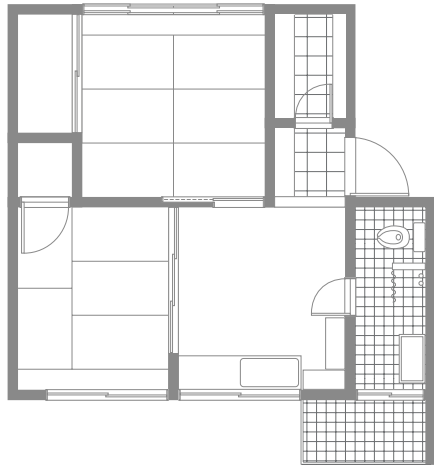
民藝運動の提唱者である柳宗悦の自邸にある階段箆笥。
1910年、家を新築した際に、友人で陶芸家の濱田庄司から
贈られたたもの。兼子夫人の音楽室に置かれている。

戦後の住宅の間取り

昭和30年代、都市部の住宅不足の課題を解消するために住宅都市整備公団が生まれます。その時に考えられたのが、いわゆるnLDKという記号であらわれ、その後の日本の住宅の基礎となっていく間取り。右の絵は1951年につくられた住宅公団のプロトタイプですが、食事をする場所が確保され、日本に初めてダイニングキッチンという空間が登場します。

食事をする時はちゃぶ台を広げて、寝る時は布団を敷いて、ひとつの部屋を多目的に使うのがそれまでの一般的な暮らし。庶民の暮らしを研究し、小さくても食事のための独立した空間が欲しいというニーズをとらえ、たどり着いた答だったのだとか。しかし、12坪以下というミニマムな設計では独立した食事室をとるのはむずかしく、キッチンと一体化したといいます。このあとすぐに、現在のシステムキッチンの原型となるステンレスの流し台も登場。こうして昭和30年代から毎年大量の公団がつけられ続け、当時のハイカラなモダン住宅として、あこがれの暮らし像になっていきます。しかしこの住宅は、家族4人が住むには、あまりにも窮屈な床面積です。時代は高度成長期。ものはどんどん増え、押し入れにはものがあふれ、あふれたものを納めるために、箆笥や本棚が必要になってきます。

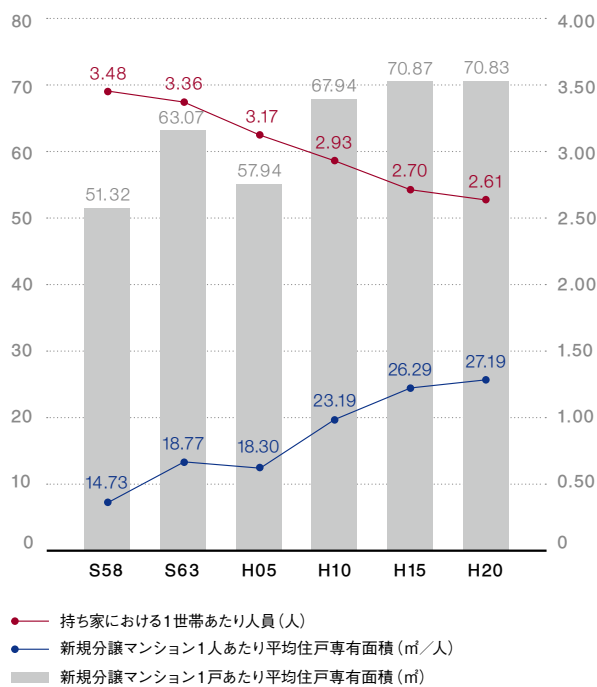
マンションの変遷をグラフで見ると、ここ60年で、初期の頃の倍の広さになっていきます。そして、それぞれの住戸には、すっきりとした暮らしを実現させるために、必要と思われる収納があらかじめ組み込まれています。しかしそれでも、ものの量は予想している家の収納面積をはるかに超えていきます。



1951年に完成したC51型。1955年の住宅公団正式発足に伴い、全国に広まります。清潔なキッチンとダイニングでの食事は、住宅の近代化と民主的な家族の象徴に。
(床面積39.0㎡、約11.8坪)

新規分譲マンションの一人当たり床面積の推移

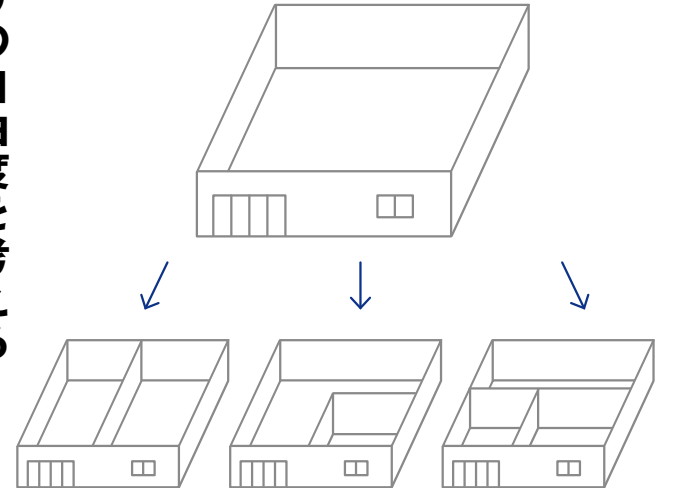
平成20年までの25年間にわたる首都圏のマンション床面積の推移です。昭和50年代からマンションの供給が本格的になり、半数以上で、一人当たりの最低居住水準(世帯数×10㎡+10㎡)が確保されるようになります。平成20年には床面積が70.83㎡となり、C51型(39.1㎡)の1.8倍に。また1世帯あたりの人員も2.61人となり、一人あたりの居住面積は倍以上になっています。



資料：「東京の土地2008」東京都都市整備局、住宅・土地統計調査／総務省

間取りの自由度を考える

1970年代になると、収納スペースや動線計画にもとづく家づくりも盛んに研究されるようになります。収納がしっかり計画された家づくりは、新しさと豊かさの象徴でもありました。それから40年、壁や収納で細かく仕切った家がかえって不便ではないか、という考えも出てきています。建築も、家族の成長や時代の変化に合わせて間取りを変えられるような自由度を持つべきだということです。高度成長も終焉を迎えたいま、消費する時代から、よいものを永く使う成熟の時代へ変わろうとしています。建築に家具を組み込むのではなく、あとから家具を置くことで空間を仕切るというような可変性の高い家のつくり方も生まれています。



暮らしとものの持ち方

建築の近代化の歴史をたどってみると、ものを効率的にしまう、見せないように隠していく、という大きな傾向がありました。その結果、すっきり納まったきれいな建築空間は保たれます。たしかに、すべてを整然と収納した時は美しいのですが、常にその状態を保つには、かなりの労力がいりそうです。日常の暮らしにはものがあふれています。そう考えると、暮らしにはかつての蔵のようなバックヤードが必要かもしれません。普段使わないものは一カ所にすっきりと納めて、身のまわりには自分の気に入ったものだけを丁寧に置いていく。すべてを隠すのではなく、日常使う必要なものを、取り出しやすい場所に置くという考え方は、いかがでしょう。

成熟した時代の家づくりや、ものとどうつき合っていくかということを、考え直す時期に来ているのかもしれません。大事なものの、美しいものの、思い出のものを傍らに置いて過ごす時間は、とても豊かなもの。そんな豊かな時間を生み出すためにも、ものの優先順位を決めて、気持ちのいい暮らしを実現させたいものです。



収納用品にみる無印良品の30年

無印良品は創設以来、収納を重要なテーマのひとつとしてとらえ、そのありかたを模索してきました。時代によって課題はさまざまですが、大きく整理すると、下の年表のような3つの流れに。2004年には、暮らしを包み込む器として「無印良品の家」も発売し、暮らしから収納を考えることも始めました。



素材から

お茶屋さんの茶箱、工事現場のヤグラ、業務用の通い函など、私たちの身の回りにはたくさんプロ仕様があります。それらに共通するのは、目的にかなった丈夫な素材を使い、実用に徹してつくられていること。プロが使っているそんなものたちを、ふだんの暮らしに活かしたいという思いから、産業用資材を使ったものづくりが始まりました。また、再生紙100%のダンボール、顔料を使わず無色で仕上げたポリプロピレンやアクリルも、無印良品の収納の原点です。



紙管ボックス
1982
小麦粉や洗剤の運搬に使われている耐久性の良い紙管ボックスです。



PPキャリアボックス
1984
道具箱の型を活用し、顔料を使わず無色に仕上げました。



PP衣装ケース
1987
中身が見えやすいよう、顔料を使わず無色に仕上げました。



ブリキ缶
1988
食品用のブリキ缶を、家庭用にシンプルに仕上げました。



ブリ材ボックス
1990
自然の風合いを生かすために、無塗装、無漂白で仕上げました。



溶融亜鉛メッキワイヤーシェルフ
1991
丈夫でサビに強い溶融亜鉛メッキで仕上げました。



バインユニット棚
1994
無塗装で仕上げ、木の自然の風合いを生かしています。



ターボリンポーチ
1996
耐水性のあるターボリン（建設用防塵カバー素材）を使用しました。



木製ユニットボックス
1998
スチールユニットシェルフと組合せできるよう、サイズを統一しました。



PP密閉ボックス
2003
医療現場で使用されている密閉ボックスを、ふたを加工して開閉できるようにしました。



無印良品の家【木の家】
2004
無印良品の商品を包み込む器として登場。無印良品の収納家具がびったり納まるよう設計しました。



バッグインバッグ
2007
カバンの中を機能的に整理できる、バッグの中のバッグです。



シリコン・仕切りカップセット
2008
お弁当の仕切りや保存容器の小分けとして使えるシリコン製のカップです。電子レンジや冷凍庫でも使用できます。



壁に付けられる家具
2009
石膏ボードの壁であれば、大きく傷付けることなく簡単に取り付けできます。



ダンボール収納
1982
無地のダンボール素材をそのまま使っています。



トタン衣装ケース
1988
業務用茶箱の素材を活用し、クリア塗装のみで仕上げました。



MDF
1992
木材の端材を粉砕して繊維状にし熱圧で成形した再生材です。



クラフトパルプボードボックス
1994
強度にすぐれた再生パルプボードを芯材に使い、クラフト紙を貼りつけた簡易収納ボックスです。



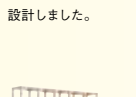
スチールユニットシェルフ
1997
サイズ、素材を統一しているので、パーツを選んで、お好みに合わせて組合せができます。



布貼りボックス
1998
生地を風合いを生かし、コンパクトに折りたためる布材の収納ボックスです。



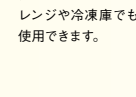
PPメイクボックス
2003
サイズ、素材を統一しているので、パーツを選んで、お好みに合わせて組合せができます。



角紙管ラック
2003
パーツを組み合わせることで棚を作ることができます。必要なパーツを必要なだけ買い足せるバラ売り。



重なるアクリル仕切付ボックス
2007
積み重ねて使えるアクリルケースです。化粧小物や洗面小物など、小物の収納に便利なサイズです。



トラベル用仕分けケース手付
2008
かさばる衣類をすっきりと収納できます。荷物整理の時や持ち運び時に便利な手付きタイプです。



スタッキングシェルフ
2009
パーツの組合せで、縦横自由に広げられる、汎用性の高いシェルフです。



アクリルCDボックス
1988
硬く透明度の高いアクリル素材を使用。キズが付きにくく、美しい素材感が特長です。



角型保存バック
2008
電子レンジに使える耐熱ガラス製の保存容器です。シリーズ商品同士で、重ねて収納できます。

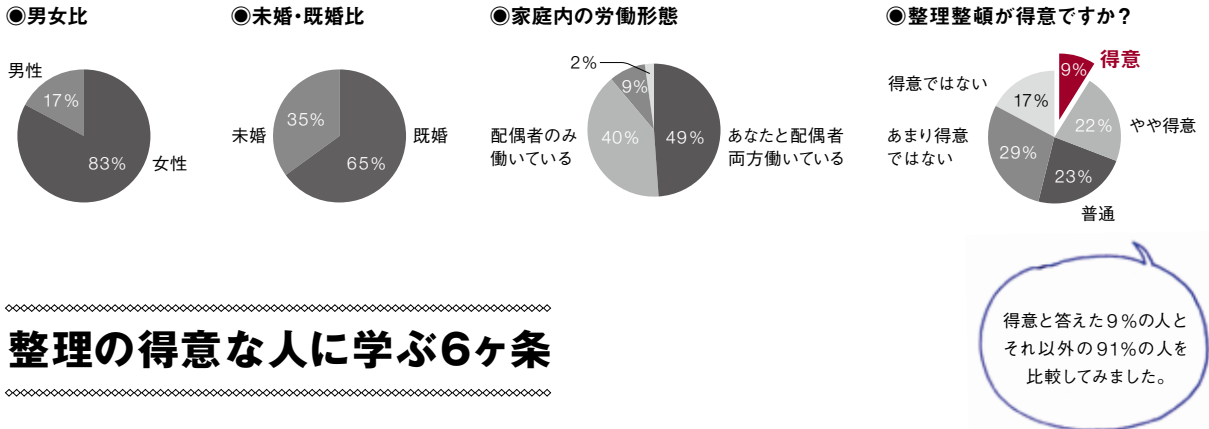


PPデスク内整理トレイ
2009
デスク内を整理収納できる仕切り付トレイ。4つのサイズを組み合わせ、いろいろなデスクに使えます。

収納についてのアンケートレポート

ものの場所を定め、使ったものは元に戻し、自分で把握できるだけの量を持つ。
上手に収納するためのポイントは、「定位置」「定量」といわれます。
頭ではわかっている、なかなかその通りにいかないのが現実。
整理の得意な人たちは、日々の暮らしの中で、どんなことを実践しているのでしょうか。

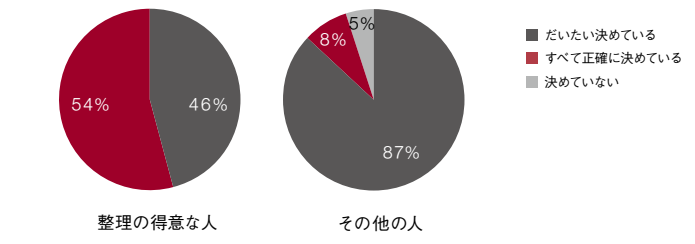
「収納についてのアンケート」2010年8月実施 3,727名参加



整理の得意な人に学ぶ6ヶ条

① ものの場所は正確に決める

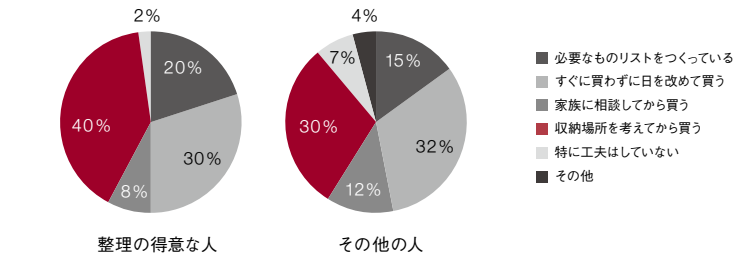
ものを使ったあと、元の場所に戻すために置き場所を決めていますか？



POINT
多くの方が、「だいたい」は決めているのですが、「正確に」決めることが大事ようです。

② 収納場所を考えてから買う

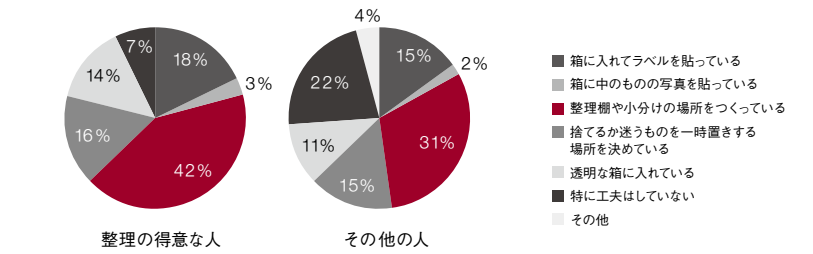
無駄なものを買わない工夫をしていますか？



お客様の声
・衝動買いしそうなのに本当に必要か、後悔しないか自問自答する。
・購入した想定で1週間程度の期間を置き、本当に必要かどうか、使用頻度を確認する。
・財布には最低限の金額しか入れない。
・衝動買いしそうになったら、本当に今買わないと1年後、後悔するか自分に3回確認する。
・買う店をだいたい決めておく。

③ 小分けの場所をつくる

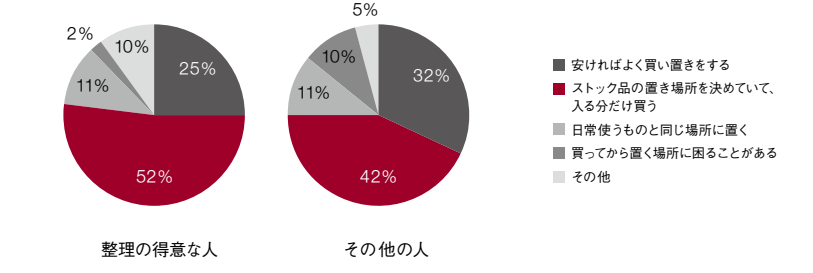
ものがどこにあるか、ひと目でわかる工夫をしていますか？



お客様の声
・引き出しを開けたときから見てわかるよう、縦に収納（立てて収納）している。
・誰が見てもわかるように、ラベルを貼っている。
・収納ケースを多用しすぎない。
・少しもったいなくても不要なものは思い切って処分して、モノの絶対量が少ない状態を保つ。
・タオル類はサイズ別に、同じ方向にたたみ、枚数などがひと目でわかるようにしている。

④ スtock品は置ける量しか買わない

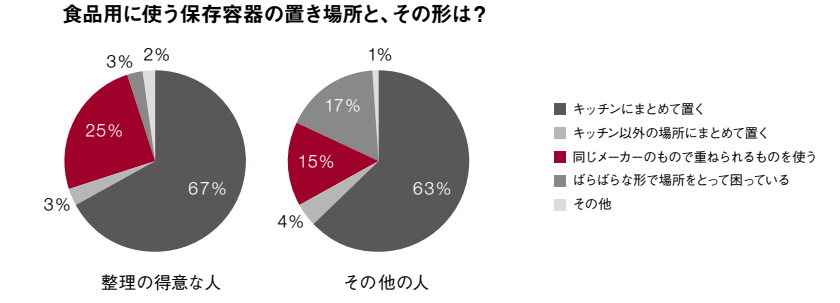
食料品・日用品の買い置きと、その置き場所は？



お客様の声
・最後のひとつに手をつけたときに買う。
・日用品の買い置きは、ひとつだけ。
・Stockはせず足りなくなったら買う。
・よく使う最低限のものだけをStockする。しまう場所は決まっているが定量以内にしている。
・トイレトペーパーのみStock品をしまう場所を 決めているが、他はStock品がない。

⑤ 保存容器は同じメーカーのものを使う

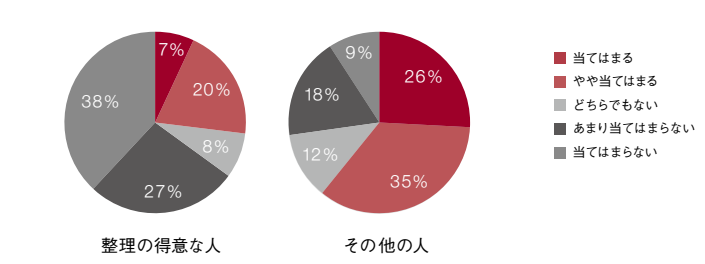
食品用に使う保存容器の置き場所と、その形は？



お客様の声
・保存容器をたくさん持たず、食器を保存容器としている。
・簡易だが無駄に場所をとるので、数量を限定して、ほとんどをお皿＋ラップで対応予定。
・モジュールを統一して、スタックしても余分なスペースができないものを選んでいる。
・保存する時はチャック付き袋を使用。
・冷蔵庫の中に空の容器も入れている。入る分しか所有していない。

⑥ 思い出の品物でも思い切って捨てる

思い出の品物が捨てられず、増えていますか？



POINT
残すにしても、捨てるにしても、苦渋の決断です。思い出は心に刻んで、思い切って捨てることもときには必要。どうしても残すものは、目に見えるところに置いて残しておきましょう。

くらし観察

「無印良品の家」を建てた方のお宅を拝見しました。暮らしを包み込む器としての家に、ユニットシェルフから小さなボックスまでが、きれいに収まっています。
「見せる収納」として、無印良品の商品が上手に活用されているのも特長です。



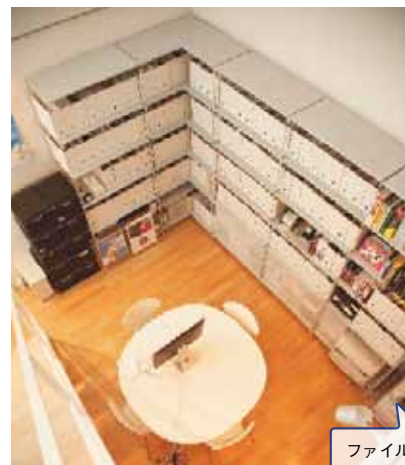
デッドスペースになりやすい階段下を活用。床置きせずイスの上に置くことで、取り出しやすくしています。



こだわりの調理道具は、しまわずに収納。使うときすぐに取り出せるだけでなく、乾燥も兼ねています。



畳式のベッドを入れた寝室。畳の下には大きな引き出しが付いていて、季節外の寝具などを収納できます。



ファイルボックスを上手に活用。中のものを見せず、統一された素材と色で、すっきりまとめています。

納戸の中にスチールユニットシェルフを置いて、大収納のウォークインクローゼットにしています。



キッチンとカウンターの間に低い壁を立てて、ものが散乱しやすい場所を隠しています。

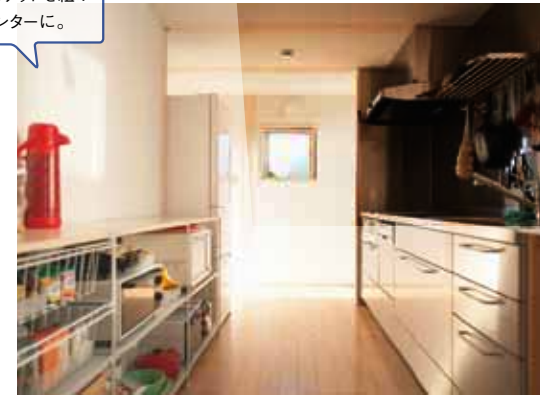


棚板の間隔を狭めて、ものを重ねずに収納できるようにしています。扉は外から置き場所がわかる半透明。



ハンガーも同じもので揃えて収納した例。肩のラインが揃っているため、すっきりと見えます。

スチールユニットシェルフに、中のものが見えやすいバスケットを組み込んで、キッチンカウンターに。



高い位置に木製の棚を設けて、扉を吊っています。隠したいときは、扉を動かしてすっきりと。



コレクションと呼べるほどたくさんの食器を、すっきりと収納した例。よく使うものは、外に出しています。



キッチン背面の収納です。炊飯器はワゴンにのせて、使うときは動かせるように工夫しています。



整理整頓、さまざまに。

収納を考えることは、ものの持ち方や整理整頓を考えること。
子どもがいる暮らしの中で、仕事の上で、プライベートな時間や空間で、
他の人は、どんなふうに整理整頓をしているのでしょうか？
取材を通して、それぞれの方の知恵や工夫、哲学までも見えてきました。

友の会 世田谷幼児生活団
こどもたちの生活を通して、子どもたち
は暮らしを学ぶことができます。



少し曲がっていても自分の手であることを大切に、お昼寝
用寝具の出し入れは子どもたちの手で。出し入れしやすく
頭をぶつけないよう、スノコはキャスター付きです。



コップはもちろん、エプロンや枕カ
バー、衾カバーにも、自分のお印付
き。それらの置き場所となるフックや
ウォールポケットなどにも同じお印が
付いているので、迷うことなく「自分の
場所」に置くことができます。

小さな工夫の積み重ねが、整理上手な子どもを育みます。

子どもがいるから片付かない——子育て中の家庭で、よく聞か
れる言葉です。とはいえ、大人だって整理整頓が苦手な人は
たくさんいます。整理整頓の力は、子どものころの躰しだいで
変わってくるものなのではないでしょうか？そんな疑問を解決する糸口
を求めて、東京友の会の「世田谷幼児生活団」を訪ねました。
幼児生活団は、「婦人之友」「自由学園」「友の会」の創立者、
羽仁もと子さんによってはじめられた幼児教育の場。「よく教
育するとは、よく生活させること」という考えのもと、小学校入
学前の3年間、週に一度集まって、集団の中で生活しながら、
よい生活習慣を身に付けていきます。
ホールはすっきり整えられていて、子どものいる場所にありが
ちな雑多な雰囲気はありません。よく見ると、部屋の所々に小
さな花や動物などのマークが貼られています。これは「お印」
と呼ばれ、ひとりひとり異なる絵柄で、その子どもの目印となる
もの。持ち物だけでなく置き場所の目印としても使われ、生活

習慣を身に付ける上で手助けになる小道具なのです。
その日は、5歳組の集合日。9時10分前、最初の子がやって
来ました。靴を脱いで自分のロッカーへ行き、鞆からエプロン、
連絡帳などを取り出し、それぞれを自分のお印の場所へ置い
ていきます。ゆったりとしたマイペース。先生方は、「一所懸命、
背筋を伸ばしてやって来る子どもの気持ちを損なわないよう
に」と、遠くから黙って見守っています。
生活習慣を身に付けるといっても、無理強いはいしません。何か
をはじめる前には「お部屋は片付いたかな？」「準備は大き
夫？」とみんなで確認しあって、自発的にできるようにするの
だそうです。「本当に身に付くためには、自分でやってみよう
と思うことが大切です」とスタッフの先生。その意欲を引き出す
ためには、お印などの小さな工夫を積み重ね、根気よく待つこ
とが大切なのでしょう。子どもの整理能力を伸ばすには、周囲
の大人の力も試されそうです。



メイクボックスとキャリー付きスツ
ケースで仕事道具一式。仕事が始
まる前に必要なものを鏡の前に並
べ、使い終わったものからしまっ
ていきます。ケース内の仕分けには、
無印良品のポーチを愛用。

常識の逆をいく「箱入り収納」。定位置が決まります。

これが基本のメイクボックスです、と差し出されたのは、ジュ
ルミン製の無骨な箱。片開きの3段スライド式で、工具箱を思
わせる構造です。そして、箱の中には箱、箱、箱、箱…色とり
どりのメイクアップ用品が華やかに並んでいるのだらうという予
想に反して、素っ気ないほどすっきりしています。
「外箱は捨てないんですか？」と聞くと「よく、そう言われます」と
草場さん。しまうときは箱に入れるのがあたりまえだと思っ
てずっとそうしてきたので、最初のうちは「えッ、他の人はそうじ
ゃないの？」と、逆に驚いたといいます。
たしかに、メイク用品はこまごまとしたものが多いだけに、四角
いボックスに入れて持ち運ぶには、箱入りの方がすっきり収
まりそうです。とはいえ、場所ふさぎのものはできるだけ減らして
必要なものだけを入れる、というのが収納の常識的な発想。
「中身だけの方が、もっと入るのでは？」という素朴な疑問も
湧いてきます。「箱に入れた状態で、このメイクボックスに入る

量だけしか持たないようにしているんです。増えすぎると、全体
が把握できなくなるから」という返事。実際、自宅でも、こまご
まとしたものは基本的に箱に入れて収納しているのだそうです。
「箱なら定位置が決まるから、使った後も元に戻しやすい」と
いう草場さんのメイクボックスの内部は、同じアイテムの中でも
色の濃淡などで並び順が決められています。
草場さんの収納の基本は、自分で把握できる量だけを持ち、
定位置を決めること。ものを増やさないためには、「入れ替え」
ということを意識しています。新しく買うものは、それまであった
何かに「替わるもの」という発想。また、シーズン毎に見直して、
ものが増えるのを防いでいるともいいます。
こんな草場さんだから、ものを買うときは「よくよく考えて」。
12月に出産を控えています、「お友だちから回ってくるものも
多いので」ベビー用品の購入も急ぎません。草場さんの収納術
には、「今あるものを生かす」精神が息づいていました。



草場妙子 メイクアップアーティスト
撮影中の手直しに使う小物は、
仕切り付きシュルダーの中に。



僧侶の食器セット「応量器」は、大小5つの器が入れ子になる構造。器の他に膝掛け、器の敷物として使う鉢単、箸、匙、食後の器を清めるための木べら（刷）、器を拭くための布巾なども。

自分に必要なものを見極めると、整頓も楽になりそうです。

そもそも収納に悩むのは、必要以上のものを持ち過ぎているせいではないか？そんな思いもあって、曹洞宗大本山の總持寺へ。簡素に徹した修行僧の生活を見させていただきました。

僧堂と呼ばれる道場は、雲水（修行僧）たちが坐禅をする修行の場であると同時に、寝起きも食事もある生活の場。堂の中央には文殊菩薩像が安置され、周囲に単と呼ばれる畳敷きのスペースが設けられています。その内、ひとりひとりに与えられるのは、畳1畳分の空間だけ。坐禅も食事も寝起きも、すべてそこで行われ、畳の縁の板（状縁）は食事の台としても使われます。

「起きて半畳、寝て1畳」という言葉がありますが、雲水の生活は、まさにそれと言ってよいでしょう。

かつて雲水は、師と仰ぐ人に出会えるまで各地の僧堂を巡って修行を重ねたといいます。托鉢しながら修行を重ねることもあり、そのためには、なにより身軽でなければなりません。そんな雲水たちの持ち物は、いたってシンプル。「袈裟行李」と呼ばれる漆塗

りの木箱、「応量器」と呼ばれる食器セット（写真では、いずれも風呂敷包みの中）、そして日用品を入れる柳行李だけ。これに坐禅のときに敷く「坐蒲」を加え、前後に振り分けて歩きます。袈裟行李には、袈裟や経典の他、修行の履歴、師から弟子への伝承の系図、そして涅槃金と呼ばれる葬式費用まで、僧侶としての人生に必要なもののすべてが入っているのだとか。究極のシンプルライフとは、このことでしょう。

収納の極意は？という問いに対して、老師から返ってきたのは「必要以外のものを持たないこと」という答。なるほど、これだけ少ないもので生活できれば、収納に頭を悩ませる必要もありません。必要以外のものを持たないということは、自分にとって本当に必要なものを見極めること。「本当に欲しいものなら、ちょっと無理をしてでも良いものを買うのが、永く使うコツでしょうね」とも。「余分なものを削ぎ落とすと、ものの本質が見えてきます」という老師の言葉が胸に沁みました。

単の奥には造り付けの収納棚が。上下2段の引き出しがひとり分のスペースで、上段に日用品、下段には蒲団が収納されています。修行中の雲水たちは、この中に収納できるだけのものしか持ちません。



花和浩明 老師
人と競うものを持つという感覚がなくなると楽になります。



阿部勤 建築家
10年がかりで屋久島に隠れ家を建築中。あと20年かかるとか。

2階書斎の窓台にも、お気に入りの小物が置かれています。窓際に設けられたデイベッドに横たわると、窓から見える庭の樹木に囲まれて、鳥の巣の中にいるよう。ベッドから手の届く位置に、本棚もあります。



写真左は、阿部さんがベニンシュラと名付けた半島型のキッチン。必要な調理道具やお気に入りのグラスなどがすぐ取り出せるよう、手の届く場所に置かれています。



置くべき場所、あるべき姿は、自然と決まってくるもの。

書斎の窓台にはあちこちで集めた鉱石や骨董、リビングのテーブル上にはご自分が磨き上げた屋久島の石（上の写真中央）…建築家・阿部勤さんのお宅には、そこそこにお気に入りのものが置かれ、心地よい空気を醸し出しています。無造作に置かれているように見えながら、雑然とした感じはありません。「家はこころの調律の場」と語る阿部さんのお宅で、ものに囲まれながら心地よく暮らす秘訣を探ってみました。

1974年に完成した阿部さんのお宅は、25年以上にわたって美しく維持されてきた建築物に与えられる「日本建築家協会25年賞」を受賞した家。時を経てきたものだけが持つ温かい心地よさと、時代が変わっても古びない普遍性を併せ持つ建物です。その中で場所を得て心地よさそうに収まっている、たくさんのものたち。「ものの置き場所は決まっているのですか」と聞くと、「決めすぎると、僕の場合は息苦しい。ものには、ものが行きたい場所、自然と収まる場所というのがあのです。あるべき姿、

置くべき場所は自然と決まってきます」という答が返ってきました。そして、「その代わり、入るものは厳選します」とも。阿部さんのお宅では、必要だけど目障りなものは、視界から外されています。それらの居場所になっているのが、キッチンの奥の4畳大のパントリー。外から直接出入りできるそこで、買い物をしたストック食品や泥つき野菜などはキッチンに入る前に足止めされ、洗濯機など種々雑多な生活用品もそこに置かれています。また、半島型のキッチンの幅と収納棚の間口を同サイズにするなど、置くべき場所が決まるように綿密な計算もなされていました。「僕は好きなものを傍に置いておきたいけど、見えないようにしまい込む方が心地よい人もあると思う。家はこころの調律の場だけど、調律の基準は、人それぞれ。その人なりの調律をすればいいのです」と語る阿部さん。たしかに、心地よい収納はひとりひとりが見つけるもので、誰にでもあてはまる正解というものはないのかもしれません。